

## 天ヶ城(高岡城)(市史跡)(宮崎市高岡町内山)(天ヶ城公園)

### 天ヶ城と高岡の歴史

天ヶ城は高岡の歴史そのものです。看板には次のように紹介されています。

『慶長5年(1600年)第17代島津義弘は、関ヶ原の合戦に敗れ、日向細島を経て帰国途中、八代(現国富町)に宿泊しました。

「関ヶ原天下分け目の合戦」と全国が見守ったこの合戦で、徳川家康の勝利が全国に知れ渡ると、島津氏と長年戦ってきた伊東家の重臣、清武城主、稲津掃部介は、「島津氏を滅ぼして伊東氏の旧領を取り戻すのは、この時期以外にない。」と考えます。稲津は、即座に兵を率いて、宮崎を平定北進し、佐土原城下に迫り、その一部は、義弘が宿泊している八代に向かって進軍しました。

それに対して、島津領内の近傍の領主達は、取るものも取りあえず、八代へ兵を進め、ようやくこの島津の兵をくい止めると、義弘は、兵数十名を引き連れて八代を脱出し、かろうじて鹿児島にたどり着くことが出来ました。

義弘はこの事件を経験して、国境警備の必要性を痛感し、伊東氏に備えるため、久津良名(現高岡中央部)の一部を城地に取り立て、城を「天ヶ城」と命名し、島津氏と関係の深かった地域から武士多数を強制移住させました。そして、比志島紀伊守国貞を初代地頭に任命し、「高岡」を前線の要としました。これが、高岡郷の創設とされています。

その後、元和元年(1615年)に一国一城令が布かれると、天ヶ城は廃城となり、城にいた武士達は、全員城を引き払い、麓(現高岡市街地)に下り住みました。

天ヶ城は、山の自然の地形を上手に利用した山城であったと言われています。』

「グルネット宮崎」サイトによる





# 天ヶ城公園 見取図

